

第14回 椋の実句会 (二〇二二年二月七日) 兼題 「空」

108. 葉牡丹や待つことのみ母の日々 (野いちご) 9点  
◎雀：長く主婦の座にある母の存在。象徴としての葉牡丹がぴったりです。
88. 狸こぬ間にぎんなんは拾ふべし (きさ) 5点  
◎雀：あの果肉にかぶれないのでしょうか。人間と獣たちとの競争がユーモラスです。
111. 石だらう口を利いたら海鼠だらう (裕章) 5点  
◎雀：「憂きことを海月に語る海鼠かな 召波」を思い出した。海鼠のくぐもつた声が聞こえそうな気がして目を瞠ってしまいます。
92. われにある少しの未来白鳥来 (とちおとめ) 7点  
◎きさ：白鳥が運んでくる少しの未来に共感しました。
113. 逆上がりしたのは昔冬青空 (翠々) 7点  
◎ひろ子：逆上がりができたときの嬉しかったこと！ぐるんと回転した冬青空。
1. 冬青空あふれ誕生日のメール (やま) 4点  
◎イネ：真青なる冬空の下で誕生日を迎えられたのですね。眩しい喜びが伝わります。
50. 風花や空メール送られたしと (ぱんだ) 3点  
◎くるみ：古語由来の敬語表現を上手に用いて、風花と空メールの取り合わせが巧み。
118. 大玻璃戸一枚へだて師走空 (くるみ) 3点  
◎雀：雪の来そうな空だろうか。長い冬を思わせます。
58. 朝々の蹄が踏みぬ霜柱 (雀) 8点  
◎濡：早朝の馬場の様子が伝わる蹄の踏む霜柱の音に心が引き締まる。
19. 能面の仄かな憂ひ冬座敷 (かける) 6点  
◎みやこ：静謐な冬の存在感があった句。
48. 凍空や更地が昨日より広い (千津子) 6点  
◎しずか：凍空のもつ ものさびしさ がよくでていると思います
45. 豆を煮てピザ焼くことも冬籠 (きさ) 5点  
◎えりこ：煤逃げの感じが好きです。なにより楽しそう♪
57. ロートは青。空の力を借りるため (しおのり子) 5点  
◎すみれ：「青。」に作者の思い入れがあると思う。斬新で若々しいです。

77. クリスマスフラワー空港に祈禱室 (すみれ) 5点

◎三晴：空港はいろいろな宗教が交錯する場所。破調が句の雰囲気に合っていると思います。

115. 通勤や座つてゐたら十二月 (節子) 5点

◎飄々子：なんなんだ、なんだ？おちよくつているんかい？通勤がいささか懐かしい。あつという間に12月。

132. 人參も大人も甘くなりけり (山音) 5点

◎しっぽな：子供の頃の好き嫌いと親との攻防の果てにいつのまにか。

33. 空き箱の高く積まれて神の旅 (イネ) 4点

◎千代志：何の箱なのでしょう。わからないところが神の旅らしいです。

22. 空泣きの目の端のポインセチアかな (りん) 3点

◎薑子：真っ赤な嘘泣きにポインセチアの深い赤が眩しい！